

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：茨城県守谷市立大野小学校

活動名： 臨時休業中の学校運営
 —RPDCA サイクルを生かして—

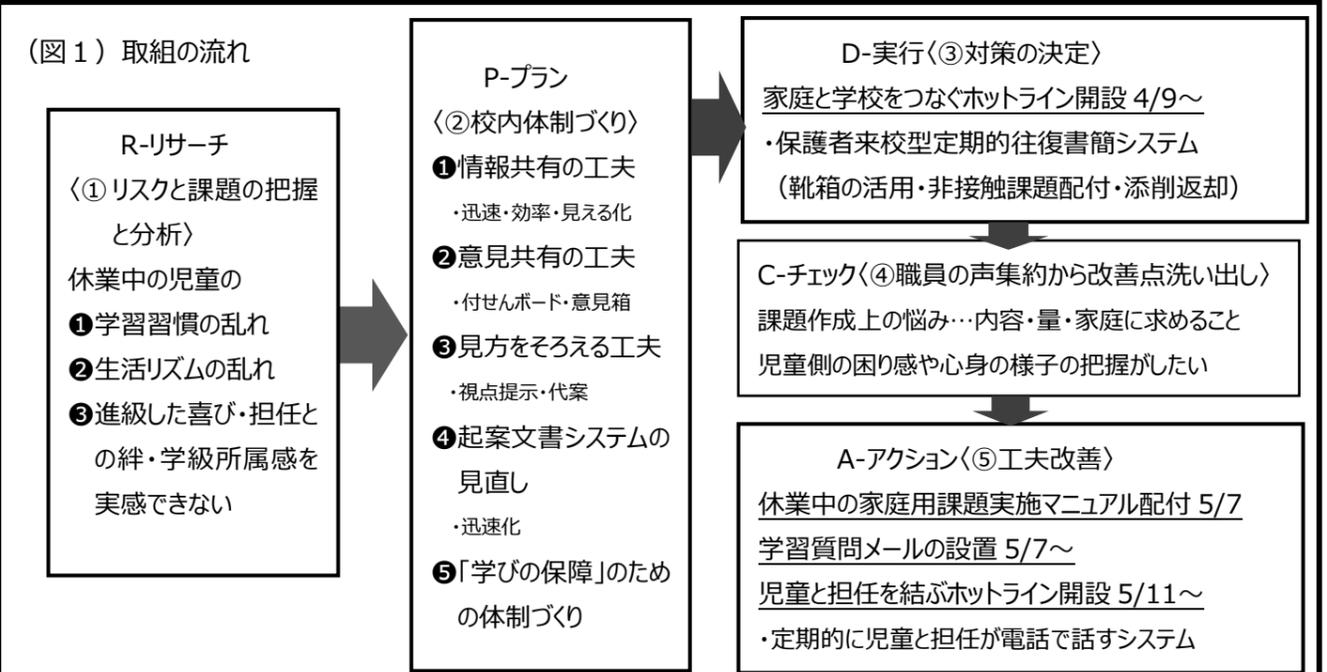
解決すべき課題： 臨時休業によって生じた課題
 ・児童…継続した教育を享受できない・人との関わりがもてない・生活リズムが崩れがち
 ・職員…未曾有の状況下での職責遂行に戸惑い
 感染症対策で個業型勤務となり共通理解を図る場の確保が難
 ・家庭…家庭での児童の過ごし方や親としての関与の仕方に不安と戸惑い

目標・方針：
 臨時休業下において生じた課題を組織的に解決するために、RPDCA サイクルを生かして実践することにより、実態に応じた学校運営を実現することができるであろう。

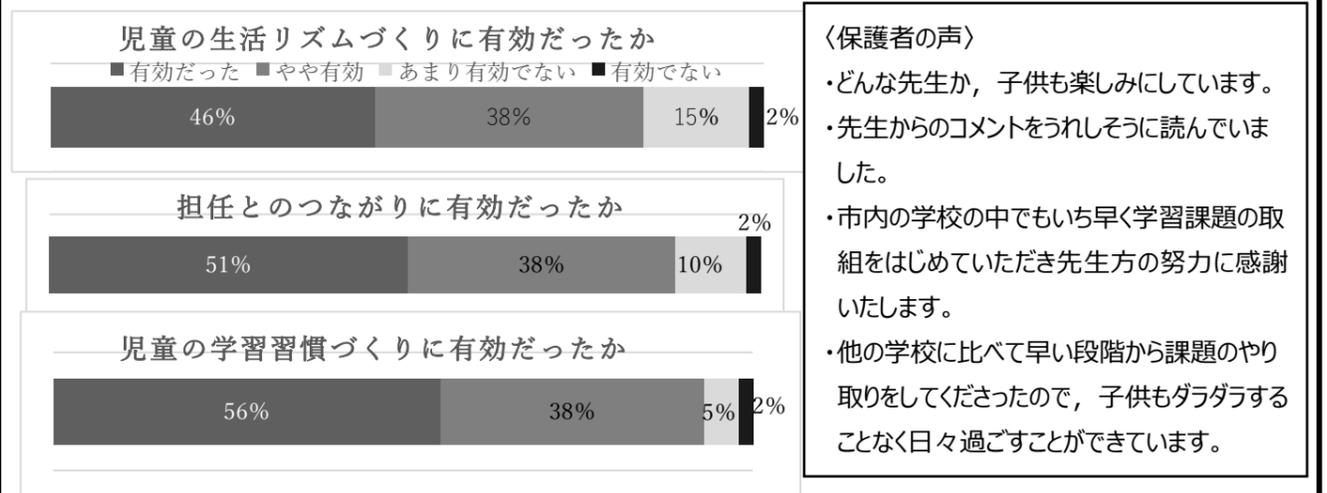
活動内容： ①→②→③→④→⑤をサイクル実施 (図1 参照)
 ① リスクと課題の把握と分析：職員の声の集約・臨時休業中の教育課題を焦点化して対策会議
 ② 体制づくり：「迅速・効率的に職員間をつなぐ体制づくり」
 ③ 対策の決定と実施：「家庭と学校をつなぐホットライン」「児童と教員を結ぶホットライン」の開設・実行
 ④ 評価：振り返り・アンケート
 ⑤ 工夫改善：より強化・効率化、補強する取組へ

活動の成果：
 ○「迅速・効率的に職員間をつなぐ体制づくり」の成果
 ① 最新の情報共有、対策会議を効率的に実施できた。
 ② 必要業務に職員総意の上、一丸となって取り組むことができた。
 ○「家庭と学校をつなぐホットライン」の成果 (グラフ1 参照)
 ① 家庭参加率 100%、「児童と担任のつながりに有効だった」と回答した職員 100%
 ② 時数の確保に結びついた。夏季休業前例年の進捗との差 (全学年平均)：国語+2h, 算数-3h
 ③ 登校再開月 (6月) の全児童出席率 98.7%
 ④ 臨時休業 2 日目に実現した本校対策のノウハウが生かされ、市内全小中学校の取組につながった。

アピールポイント (アイデアや工夫)：
 ・職員総意の上での RPDCA サイクルの循環により、地域や児童の実態に則した対策を講じることができた。さらに職員が主体的・創造的に業務に取り組む姿が見られた。
 ・感染症対策で職員の勤務体制に制限が生じた中 (分散勤務・在宅勤務等) で、効率的に職員の意見集約や情報共有ができる校内体制を構築し実践した。
 ・課題解決に向けて地域の実態や感染拡大状況を加味した策 (家庭と学校をつなぐホットライン) を講じた結果、各家庭の ICT 環境差や保護者の勤務形態に関係なく、100%の家庭参加に結びついた。
 ・臨時休業に入る時点で学校再開までを見通した策を組織的に講じ、保護者に周知できた。



(グラフ1) 家庭アンケート結果「家庭と学校をつなぐホットライン」について (登校再開直前の R2. 5 月末に実施)



(写真1) ポストに変身したくつ箱 (写真2) 児童と会話する学級担任 (写真3) 児童の学習予定表

